



「異変なき確率倍増の宝くじ、 根拠あり確率変動の周産期疾病」

ちょっと聞いてよ

JA西日本くみあい飼料株式会社広島営業所 獣医師 中尾 継幸(なかお つぐゆき)氏

景気回復の兆しが見えないこのご時勢、人間心理は短絡的な金欲に向く傾向があるようです。私もその例に違わず、昨年末にジャンボ宝くじを十枚購入しました。「二等二億円の当選確率が昨年より倍増！」との宣伝文句に促され、なげなしの小遣い三千円を投資したのですが、結局それらは七等三百円の『当選』一枚を残して、ただの紙屑となりました。

悔しさと反省から宣伝文句の「一等当選確率倍増」の持つ意味を考えるに、年末ジャンボは組三桁と番号六桁の組み合わせで、一等には一昨年までこの合計八つの数字をすべて合致させる必要があります、その確率は千万分の一でしたが、昨年は『倍増』して千万分の二となった、という事です。

しかし、何ともこれは落雷に討たれて死ぬよりもまだ低い確率だということです。つまり年末ジャンボなどの千万もの母集団では、その確率が倍増した程度で、僅か数枚買うだけの我々庶民



にとつては、何の影響も無いのが実態なのです。しかし、これが百程度の母集団において、その確率が数倍増加したとなると大問題です。酪農においても、統計的観点から周産期疾病の発生確率に関する調査があります。そこでは分娩後の周産期疾病

の根源は、乾乳期管理の不備による原発性ケトーシスと低カルシウム血症(乳熱)とされ、それに連鎖する代謝疾患の発生確率が示されています。

例えば、乳熱に陥った牛は正常な牛より胎盤停滞発生の確率が四倍に増え、さらに胎盤停滞した牛は食餌性ケトーシスの発生確率が十六倍になります。原発性ケトーシス牛では第四胃変位を続発する確率が十二倍で、更にそれらに続く繁殖障害や乳房炎の発生確率も上昇します。

これらを極端に解釈すれば、百頭飼養規模の酪農家では、もし乳熱を示した牛が一頭存在すれば、十倍以上の第四胃変位や繁殖障害予備群の牛が存在する事になります。ホクレンの五十嵐氏は、この規模で周産期疾病が連鎖発生すれば、全乳期を通じ約10%の産乳量低下となり、年間約九百万円もの減収と試算しています。

また、周産期病は幸運が続かない宝くじと違い、例えば一頭に変位が発生すると、確率変動したかの如くその後にく々と変位牛が続く事があります。このような場合には乾乳期の飼養管理を再度見直し、疾病発生確率を根拠からゼロに戻して、負の連鎖を断ち切ることが効果的・優先的な実施課題なのです。

宝くじでも過去の幸運の連鎖に肖ると、高額当選頻出の売り場で購入する人がいます。しかし、実際はどこで買っても一枚あたりの当選確率は同じです。購入枚数を多くすれば当選数は増えますが、戻る賞金は「大枚の法則」で理論値に近づき、儲かる可能性は減ります。結論として、宝くじは「買わないことが一番儲かる」損しないという事なのです。

た牛が一頭存在すれば、十倍以上の第四胃変位や繁殖障害予備群の牛が存在する事になります。ホクレンの五十嵐氏は、この規模で周産期疾病が連鎖発生すれば、全乳期を通じ約10%の産乳量低下となり、年間約九百万円もの減収と試算しています。

また、周産期病は幸運が続かない宝くじと違い、例えば一頭に変位が発生すると、確率変動したかの如くその後にく々と変位牛が続く事があります。このような場合には乾乳期の飼養管理を再度見直し、疾病発生確率を根拠からゼロに戻して、負の連鎖を断ち切ることが効果的・優先的な実施課題なのです。

宝くじでも過去の幸運の連鎖に肖ると、高額当選頻出の売り場で購入する人がいます。しかし、実際はどこで買っても一枚あたりの当選確率は同じです。購入枚数を多くすれば当選数は増えますが、戻る賞金は「大枚の法則」で理論値に近づき、儲かる可能性は減ります。結論として、宝くじは「買わないことが一番儲かる」損しないという事なのです。

た牛が一頭存在すれば、十倍以上の第四胃変位や繁殖障害予備群の牛が存在する事になります。ホクレンの五十嵐氏は、この規模で周産期疾病が連鎖発生すれば、全乳期を通じ約10%の産乳量低下となり、年間約九百万円もの減収と試算しています。

また、周産期病は幸運が続かない宝くじと違い、例えば一頭に変位が発生すると、確率変動したかの如くその後にく々と変位牛が続く事があります。このような場合には乾乳期の飼養管理を再度見直し、疾病発生確率を根拠からゼロに戻して、負の連鎖を断ち切ることが効果的・優先的な実施課題なのです。